

広報明誠

◆◆第87号◆◆

平成21年3月1日

日本大学明誠高等学校後援会



主な内容

- 一年を振り返って ……会 長 …… 2
- 一年を振り返り ……学校長 …… 3
- 着任の挨拶 ……教頭先生 …… 4,5
- 各学年主任から …… 6,7
- バザー報告 ……実行委員長 …… 8

- 体育祭・強歩大会 …… 9,10
- 秋季研修会報告 ……部会長 …… 11
- 強歩大会支援活動報告 ……実行委員長 …… 12
- お知らせ …… 13
- 後援会活動報告・編集後記 …… 14

平成20年5月の後援会定期総会において会長に就任してから、早いもので子ども達が卒業を迎えました。一年を振り返りますと、米国のサブプライムローン問題に端を発した経済不況、派遣切り、内定取消等暗い話題がありましたが、日本人によるノーベル賞、北京オリンピックの日本人の活躍等明るい話題もありました。オリンピックでは、ソフトボールなど日本勢の活躍に日本中が元気をもらったものでした。中でもウェイトリフティング男子日本代表小宮山哲雄監督は、明誠高校の卒業生でその活躍も記憶に新しいところです。

この間、就任挨拶で述べましたように後援会は、会員相互の深い共通理解のもとに皆様の声を大切にしながら、学校行事や教育指導上に係わる補助、協力を通して生徒達の良い環境を整えられるよう、心を一つにして活動・運営してまいりました。多くの事業が役員ならびに委員の皆さんの協力により親睦を深めながら楽しく行われました。ここでは、各行事をとおして一年間を振り返ってみたいと思います。

初めの行事として、6月28日・29日に行われました誠祭に開催したバザーです。バザー用品も昨年同様の数が集めることが出来ました。ここでバザー用品を提供して頂きました後援会会員及教職員等の皆様に改めてお礼申し上げます。誠祭前日、当日には多くの役員委員の方に参加していただき、前日はバザー用品の値段付けやテント設営を行いました。お母さん達が担当している値段付けでは、「この商品は500円? いや1000円でも良いかしら」などと2日分の商品を手際よく分別し準備をして頂きました。

当日は天気にも恵まれ、心配していました来場者についても開店前には、地元の方を含め多くの人盛りができるほどの大盛況でした。グラウンドに設置されたテントの屋台では、保護者や他校の生徒が来場しとてもにぎやかな様子でした。各クラス子ども達は、アイスクリームや焼き鳥などをバザー会場まで出張販売にきてくれ、私達

と気軽に話してくれたことがとてもとても印象的でした。どの保護者も普段は見ることもできない子ども達に接することが出来たのではないのでしょうか。

次の事業として、11月22日に行われました強歩大会におけるトン汁作りです。大会前日に、大量の野菜をそれぞれ分担を決めて委員役員のお母さん達が仕込みを行いました。大根・にんじん・ごぼうのさがき等長時間にわたり協力して頂きました。男性は、テントの設営や大なべを設置し準備完了です。当日は、朝早くから地元のメンバーが3つの特大鍋でトン汁作りをはじめました。そして出来上がると同時に、子ども達が徐々にゴールし始めました。どんぶりに溢れんばかりのトン汁とおにぎりを持ち、一口食べて子ども達は「美味しい・美味しい」とその笑顔に、私達はほほえましさを感じました。

最後の事業は、卒業謝恩会です。以前は学校で開催していましたが京王プラザ八王子で行います。ここでの開催は今年で3回目となります。現在、卒業生の保護者の皆さんは謝恩会開催の案内状や送迎バスの準備などに追われています。この広報誌が発行される3月1日の卒業式終了後には盛大に行われていることでしょう。

最後になりますが、後援会活動に多大なるご尽力をいただきました役員・委員並びに校長先生、事務長、経理長はじめ教職員の皆様、そしてご理解を賜りました後援会会員・関係各位に深く敬意と感謝を申し上げますとともに、今後の後援会の発展をお祈り申し上げます。一年間会長としてお世話になり本当にありがとうございました。



ご卒業おめでとうございます。気温の変化に微妙に山々が姿を変えてきます。春はもうすぐそこです。新しい一步を踏み出すあなた方に合わせるかのように、春の足音が聞えるようです。三年前桜の花に迎えられ入学し、今日の日をむかえられ感激もひとしおかと思われます。過ぎてみればあっという間の三年間であったかもしれません。長く感じた人もいると思いますが、多感な青春の一時期、ここ明誠高校で過ごした時間はだれにとっても貴重な時であったと思います。卒業後時間が経つにつれ、なにかと思い出されることでしょう。ひとつのことに時間とエネルギーを充分かけできた者にとっては、なおさら強く思い出されることと思います。初めて顔を合わせた者と三年経ったら自然に気心を知り合う友達もたくさん出来たと思います。数年ぶりに開かれた球技大会、五月には山梨県総体が開催され関東大会、全国大会目指して各クラブの活躍が楽しみであった。どの会場も熱い応援がかわされていた。五月も半ばになると芸術鑑賞教室。東京に出て帰りに東京見物。人ごみに疲れがどっとで、学校に登校して改めて明誠の良さを認識。中間試験が終るといよいよ学園祭の準備。本校の壁画作成に段ボウルを下げてる生徒が目につきだす。この頃に教育実習生も実習を終え、一緒に参加。すっかりとけ込んでいる。三年生にとっては最後の学園祭。この学園祭に後援会の方々が華をそえてくれる。後援会主催のバザーは毎年好評で、近所の方も楽しみにしてくれている。保護者の輪、結びつきの強さ、頼もしさを感じる。次年度本校を受験希望する生徒、保護者も本校の雰囲気をつかんでいただける。

自然環境の良さと、生徒、保護者が一体となる姿に明誠の良さを感じ取ってくれるはず。

七月の校内学力テストが終ると夏休みはすぐのことなる。三年生にとっては気の重い休みだが誰もがとおりすぎる時期。下級生にバトンタッチするクラブも出てくる。九月になると二年生のときは、修学旅行の話でわくわくさせていたはず。オーストラリアの海岸、メルファームセンター、市

内観光などなつかしい。トラクターに乗っている姿が目につかぶ。強歩大会はなんと言ってもトン汁です。あの味はここしかでない。後援会の方が数日前から準備してくれる。今年は昨年度の後援会の方も応援に来てくれ手伝ってくれました。体育大会では上級生がよく下級生をリードしてくれた。11月半ばに先生方全員で中学校訪問をしましたが、後援会の方が本校の学校案内やポスターを中学校にもって行ってくれ本校のピーアールをしてくださった方がいて、感謝の気持ちでいっぱいです。頑張ります。

学校行事を通じていろいろな出会いがありました。多くの人に支えられているとつくづく思う一年でした。

平成22年には、本校は創設五十周年を迎えます。卒業生はあなた方をいれ二万人近くになります。各界、各分野でみなさん活躍し、いつも本校生徒に暖かいまなざしを送ってくれています。先輩たちに負けず頑張って、後輩たちによき手本をみせていただきたい。

アメリカのサブプライム問題、原油値上がりにより始まり株価がいきなり落ち、円高で日本経済はたががはずれたかのように軋みだしてきたまま年を越してきました。一国の経済状況が世界中の経済を巻き込む世の中になってしまった。これからますますこの状況は進んでくる。他国の出来事を傍観することなく、情報を的確に把握し常に自分の国の問題として意識しながら生活していくことが大切な世の中になってきた。金融危機は大学の経営にも影響を及ぼしてきた。少子化により定員確保が厳しくなったり、低金利がつづいたりして資産運用に乗り出し損失をまねいた大学がいくつか報道されたが不安はぬぐいきれない。こうした厳しい時代はいつの世にもあった。過去を振り返り先人の知恵を学ぶ時です。歴史をながめ、ある時代に焦点を合わせ、その時代を乗り切ってきたひとたちに学ぶことが必要ではないかと思います。過去を振り返りながら、未来を見据えて行く心構えと勇気をあなた方に期待したい。



平成20年7月7日付けで本校、日本大学明誠高等学校に着任しました。よろしくお願いします。学校は本校で三校目になります。最初は、日本大学文理学部国文学科を卒業後、千葉県船橋市にある日本大学習志野高等学校(当時の校名は日本大学工業高等学校・男女共学)です。15年間勤めました。大学を卒業したばかりの若僧でした。右も左もわからないまま、我武者羅に直進した15年間だったように思います。思う存分仕事に熱中できたのも、当時の同僚先輩や保護者の温かい理解があったからだ感謝しています。15年間で4回卒業生を出しました。クラブ顧問も随分やりました。体育系ではサッカー部、バレーボール部。文科系では茶道部、書道部、写真部。同好会は鉄道同好会、釣り同好会などです。

二校目は、東京都板橋区にある日本大学豊山女子中学・高等学校です。中学・高校合わせて1200人規模の学校です。平成元年から平成20年7月までの約20年間勤務しました。文字どおり右を向いても左を向いても女子ばかりです。下は小学校を出たての中学1年生から上は高校3年生まで、6歳の年齢差のある学

校です。この子たちの6年間の成長過程を、まさしく目覚しい成長過程を具に見ることができました。女の子は男の子に比べて変化が大変激しい。女子校では卒業生を1回も出せなかったことが心残りです。生活指導主任、教務主任として生徒とは間接的な接触が主になり、クラス担任のように生徒と直接接触ができなかったからです。クラブの顧問は文芸部と書道部でした。

女子校で指導上一番注意を払わなければならないことは、進路指導等は言うまでもないことですが、生活指導です。生活指導上の問題が出てくると、連鎖反応を起こします。次々と連鎖的に問題が起こるのが女子校の特徴です。それは女子特有の「横並び一線」の心理状況から起こるものです。「横並び一線」の目に見える現象の例を挙げれば登下校時の風景です。広い通路であっても狭い通路であっても、仲のよい友達同士、必ずと言っていいほどお喋りをしながら横一列で歩きます。良い面もあれば悪い面もあります。悪い面としては「いじめ」に発展して行く可能性があります。その他学校生活の諸々の面で教員の気づかないところで発生する可能性があります。女子校では生活指導が乱れたら、学校そのものが、特に私立の女子校としては致命傷にもなりかねません。そういう点に私は細心の注意を払いました。現象として目に見える前の、目に見えない様子に注意を払って生活指導をしてきました。しかし幸いなことに、豊山女子校の生徒たちは比較的温かな性格でありましたので、日常的に生活指導事項に追われることはほとんどありませんでした。そういう意味では生徒たちに助けられた恵まれた20年間であり、生

徒たちに感謝しています。

さて三校目ですが、言うまでもなく本校・日本大学明誠高等学校です。今までとは少し立場が異なっています。日本の全国的傾向としての少子高齢化、過疎化、経済不況の厳しい中で、校長を補佐し、いかに本校をさらに発展させるかという立場です。また、今まで私が生活していた場所とでは地域環境が大きく異なっています。地理的・文化的・歴史的・自然的環境の相異です。昨年9月、実質的な勤務が始まってから早くも5ヶ月が経ちました。地縁・血縁関係が大変強い土地柄です。本校を理解するためには、本校を取り巻く環境、山梨県上野原市の生活環境・意識をまず知ることが、そしてその環境の中にできるだけ早く溶け込むことが急務であると考えています。

今私の手元に、上野原市の刊行誌「上野原市・つながる」(特集人・暮らし・文化がつながる)があります。これは昨年の7月、着任の挨拶に来たときに本校の事務長から、「まず、読んでごらん下さい」と言われて渡されたものです。もう一つは桐原ふるさと長寿館の食堂のおばさんから貰った「うえのはら観光・ハイキングマップ」(五感元気に暮らし豊かに)です。この二つの資料をもとに、北は西原方面、南は安寺沢方面・無生野方面まで、ある時は徒歩で、自転車で軽自動車まで回ってきました。どこに行っても住民の皆さん方は親切に温かく、いろいろなことを話してくれました。安寺沢の郷倉では「まあ、上がんなさい」と言われ、炭火の炬燵でお茶をいただき、地域の様子を語ってくれました。その家から厳道峠方向へ少し行った所に民家が三軒あって、そのまん中の家の子が、今、日本大学明誠高等学校の二年生に在学しているなどということも教えてくれました。

本校では、年齢の若い先生が半数を占めるようになりました。その若い先生方が目いっぱい仕事ができるように、学校の環境を整え、指導することが私の本校での仕事のようなのです。

町の中を、山の中をうろつき回っている私を見かけたら、どうぞ声をかけてください。よろしくお願いします。



進路先決定における重要な最終学年の3年生。ここに来て、やっと自分の将来について真剣に考え始めた生徒たち。日本大学各学部や他大学への訪問、進学雑誌等での情報収集、担任との三者面談。それと並行して、高校生活最後の大会に全てを捧げてきた、文化・体育各部に所属する部員たち。その夢をかなえた者、かなえられなかった者、勝負の世界に結果は2通りのみ。敗者にも Good Looser の素晴らしい称号が送られる。

いよいよ進路決定時期も佳境。志望理由書や自己推薦書の作成には、担任を含め関係教員のアドバイスをもらい、悪戦苦闘の中やっと完成。その努力のかいあって見事に合格者続出。学校・学年として、卒業時の進路先決定100%目標を掲げたが、日本大学進学率60%の大台を超えたことも含め、その達成の可能性大である。

そして卒業!とうとうこの日がやってきた。それぞれの想いを胸に…。この3年間、見事「皆勤賞」受賞の荣誉に輝いたもの49名。これは生徒各自の努力のみならず、保護者の皆様の絶大なサポートがなければ全く実現不可能なことで

ある。

この時期にきて、日本を含めて世界は未曾有の金融危機である。その厳しい世の中にいずれ巻き込まれる生徒にとっては前途多難が予想される。人間、一生の間では、勉強しなければならない一時期を経験することが必要不可欠だと言われる。過去の自分自身を振り返ってみて、今後はどうあるべきかを自問自答してもらいたい。受けた教育というものは、後になって本人の胸の中に湧いてくるものだ。社会に出て初めて高校(学生)時代の良さも理解できる。「学校評価」は、普通高校でいえば、当然進学率がそれに反映されるものだが、真の「学校評価」というものは、その学校が『どのような人材を輩出したか』で決まる。卒業生の生徒諸君、『青は藍より出でて、藍より青し』この精神で素晴らしい人生を送ることを切に願うばかりである。

最後に、この3年間、担任・学年・学校側からの教育に対しご理解並びにご協力を頂きましたことに、厚く感謝を申し上げます。

成長のために

2学年 主任 大桃 淳

あまり良い表現ではありませんが、「1年生は戸惑う年」、「2年生は中だるみの年」、「3年生は進路に追われる年」というイメージが私にはあります。もちろんそのような状態になってはいけないと思います。そこで、2年生で飛躍とまでは言わないまでも、中だるみをしないようにさせたいと4月当初に考えました。そして学年集会や学年だよりを通して「頑張り続けることは難しいかもしれないが、平均したら、2年次は1年次より少し良かったと思えるようにしてほしい」と言い続けてきました。

「そのことが出来たかどうかは、生徒一人ひとりの判断にゆだねます。まずは、この一年間を

振り返り、自分の姿を見つめなおしてください。いろいろあったでしょうが、平均すると、1年次より良くやったと言えるでしょうか。

その上で、3年生になったときの「あるべき自分の姿」を想像してみてください。その姿が具体的であればあるほど、これからの一年間にやるべきことが見えてきます。あとは、がんばるのみです。」

高校3年生としての一年間は、人によっては人生の岐路になる年だと思います。生徒一人ひとりが、理想とする自分の姿をしっかりと思い描きながら、日々を送ってくれることを願っています。くれぐれも「ただ歩いていたらどこか

にたどり着いた」というような一年間にして欲しくはありません。

日大明誠高校で過ごした2年間に、生徒はいろいろな経験をしてきました。キャベツ刈り、壁画作り、強歩大会、修学旅行。さまざまな出来事を通して友達と共に感動し、楽しい瞬間を味わってきました。時には辛い思いをしたこともあったかも知れませんが、友達や担任の先生、

ときには保健室の先生などに助けられながら、一生懸命に日々を過ごしてきたと思います。その一生懸命さが、必ず生徒を成長させてくれたことと信じます。

3年生になっても、今までの成長を足がかりにして、人として大きく成長してくれることを願っています。

一年を振り返って

1学年 主任 小保 康信

平成20年4月の入学式から、はや1年が過ぎようとしています。この一年間を振り返ってみました。

4月。入学式後に長野県車山高原にて宿泊研修を実施。友との出会いなど思い出に残ることがいっぱい。学校に戻り、高校の授業が始まった。17日(木)は日大標準学力テスト受験。26日(土)の球技大会ではクラス一丸となって皆良く頑張った。

5月。運動部にとっては結果が気になる季節となり、7日から9日の3日間、山梨県高等学校総合体育大会(甲府を中心)に出場。高校1年生にとっては初めての試合経験となる。

16日(金)、芸術鑑賞教室が五反田のキャッツ・シアターで行われ、キャッツ専用劇場での音響効果・色彩・内容など劇団四季の迫力を感じることができた一日。下旬、1学期中間考査。高校生になって、初めての定期考査、日頃の授業の大切さを痛感。

6月。日本大学学部見学会に1年生も参加。下旬の28日(土)・29日(日)には文化祭を開催。全校企画の巨大壁画では各自ダンボールを準備し、色塗りや連結作業などクラスの団結力が培われ、クラス出し物も各々工夫を凝らし真剣に取り組む青春を謳歌した2日間。

7月。中旬には三者面談を実施。生徒・保護者・担任の三者で高校生活全般に関しての面談

を実施。

夏期休暇に入り、希望者による合宿セミナーを実施。学習の習慣を身に付けた者、規則正しい日々のなかから学習の大切さをつかんだ者、参加者にとって有意義なセミナーであった。

9月。中旬、1学期期末考査を実施。30日(火)には残暑の中、1学期終業式を迎えた。

10月。2日(木)は2学期始業式。上旬には体育祭を実施。1年生、生徒諸君良く頑張った。中旬には公開授業が行われ、保護者の方々が教室に入り、ちょっぴり緊張した授業を経験。

11月。22日(土)は強歩大会実施。紅葉の山中、自然に親しみ全員が完歩した。

12月。上旬に2学期中間考査。中旬は三者面談を実施。面談内容は、成績、生活態度、2年進級における文系・理系の選択、高校生活の悩み等、有意義な面談であった。

平成21年1月。新たな年を迎え、8日(木)は全校集会。

2月。寒い中、生徒諸君元気に登校。2年進級を目の前にして、日々努力の毎日。

3月。上旬。2学期期末考査。1学年として最後の考査。23日、2学期終業式。

生徒諸君へ

4月からは2年生になります。学習に部活動に全力で取り組んで下さい。期待しています。

誠祭バザー報告

実行委員長 瀬沼 康雄

今年度のバザーを、6月28日、29日の誠祭で実施致しました。期間中は、好天に恵まれ後援会会員の皆様、教職員の方々のご協力により無事に終了することができました。

当初はバザー用品の集まりが少なく、再募集のお願いやクラブ活動の皆様へ協力要請をし、昨年同様の数に達することができました。バザーは、後援会2学年が担当となり、前日の物品の値段付け準備、当日の運営まで委員を中心とした保護者の方々の協力で終了することができましたことに深く感謝申し上げます。地元の方々や多くの後援会の皆様が来場していただき、バザー用品の売れ行きもよく終了時間前にすべてが完売となりました。また、来校者のための休憩所として、管理棟フロアに用意した「お茶処」の運営では、多くの後援会の方々が交流を深めることができ、とても有り難く思っています。

最後になりますが、数多くの良きバザー用品を提供をして下さいました後援会の皆様並びに教職員の皆様また、後援会OBの皆様に厚くお礼申し上げます。このように多くの方々のご支援ご協力により誠祭を成功すること出来たことに心より感謝申し上げます。

売上金は競歩大会おにぎり購入費として、さらに木製ベンチ2脚も購入しました。なお、残金は生徒会に寄付いたしました。今後とも後援会活動にご協力をお願い致します。

バザー売上金	245,880円
経費	25,147円



体 育 祭

10月8日



小さなお客様



先生、がんばって！



1年男女 綱引き



1年 開会式



2年男子 ムカデ競争



2年男女 大縄



3年男子 騎馬戦



3年女子 棒引き

強 歩 大 会

11月22日



開会式



スタート



ゴ〜ル !!

私事で恐縮ですが、私はラーメンを食べることが大好きです。以前にはラーメン好きの友人と、2時間で八王子の某ラーメン店を3軒はしごしました。一番のお気に入りには醤油をベースとした「支那そば」と呼ばれているラーメンです。そのラーメンの麺は小麦粉、スープの醤油は大豆、のり、ほうれん草、メンマ、卵…と材料の原産地を調べると、ほとんどのものが国外で生産されています。2008年は生産地の偽装、毒物の含有など食の安全性の問題がマスコミに多く取り上げられてきました。このような状況の中、秋季研修会は、「食」に対するテーマと言うことを聞き、「まさに私たちへの警告を発してくれる講演会だ。」と感じ、研修部の方々と先生方とで話し合いをすすめて来ました。とくに今年度は学校の講演会と合同開催ということで、準備、段取りなど、ほとんど何から何まで先生方にはお世話になりました。研修部としての仕事も少なく、大変楽をさせていただき、この場を借りてお礼を申し上げます。当日は新人戦出場者を除く1年生と後援会の役員さん、また研修部、そして一般の方がもみじホールを埋め尽くしました。

I部は日本大学の小松先生による学祖「山田顕義」先生に関する講話でした。パワーポイントに

よる説明の中、日本大学のルーツが吉田松陰につながっているとは驚きでした。

さていよいよII部です。講師は富士山のふもと、富士吉田市で農業を営んでいる武藤傳太郎（でんたろう）先生です。先生は奥様とお子様を連れて来られました。まさに1つのことを家族全員で取り組んでいる様子が良くわかりました。あのグルメ漫画の「美味しんぼ」の中で紹介された「ミルキークイーン」というブランド米の生産、普及活動の苦労話を聞きました。先生は自ら開発したノウハウを惜しげもなく仲間に教えたり、デパートでの販売の拡大を断るなど、まさに農業に対する確固たるポリシーをもった方だと感激しました。またそれだけにとどまらず世界の食糧事情、飢餓で苦しむ地域の話、食の安全の話など、時間があっという間に過ぎていきました。今回の講演を聞き、私たちの身体の源である「食」と「食生活」について再考しなければならないと思いました。安く、得体の知れないものを食べ、病気になり、高い医療費を払うよりは、若干高価でもきちんと作られたものを食べ、年齢を重ねても病気知らずで、健康でいられる方がよっぽど良いと痛感した講演会でした。



強歩大会支援活動報告

実行委員長 山崎 忠彦

昨年11月22日快晴のもと強歩大会が行われました。富士の頂に見守られ、爽やかな気候の中参加した生徒達は、それぞれのペースで、晴れやかな笑顔とともに次々にゴールして来ました。

例年通り、後援会でトン汁を用意し、大好評を頂、無事完食となりました。今回はバザーの収益金から、一人一個ですがおにぎりも提供し、昼食の代わりになったと、喜びの声をいただきました。今後の課題もいくつかありましたが、役員一

同充実した活動となりました。

強風が吹く中でのテントや調理器具等の設営や、大量の野菜切り等の前日準備、朝早くからの当日活動ともに、各学年の委員の皆様、野球部の保護者とOBの皆様には、多大な御協力をいただき心より感謝いたします。又、二日間に渡り、総勢106名の方々にご参加、ご活躍いただきましたことをこの場をお借りしてご報告させていただきます。



“超美味”トン汁作り



～ お 知 ら せ ～

卒業生が北京オリンピックへ

～小宮山哲雄先生について～

小宮山先生の高校時代は各学年の生徒数が600人を超え進学することがとても大変な時代でした。クラブ活動にもとても熱心でしたが、学習にもそれ以上の力を注いでいました。当時日大に進学するには、日大の統一テストで入学するか一般試験で入学するか二つの方法しかありませんでした。小宮山先生は人一倍の努力をする生徒でした。日大統一テスト試験では文理学部体育学科推薦試験受験者の中でも全付属高校の中で最も優秀な成績で合格しました。私は小宮山先生に、いつ勉強していたのか聞いたことがありました。普段はクラブ活動を終了後に帰宅して食事を取り1時まで睡眠をし、1時から6時まで勉強をしていたそうです。

クラブ活動でも頑張り、関東高校大会では優勝し、全国高校総体2位に入賞することができました。大学進学後も数多くの日本記録を樹立し、国民体育大会優勝・世界選手権出場など輝かしい実績を残しました。指導者になってからは、日川高校・吉田高校の指導をおこない全国高校総体・国体では数多くの団体優勝・個人優勝者をだす実績を残しました。

今回は日本ウエイトリフティング協会の北京オリンピック代表監督として4年間大変な仕事をされました。精神的にも肉体的にもとても大変な苦労があったと思います。ご苦労さまでした。今後も一層の健闘を期待いたします。

ウエイトリフティング部 顧問 檜垣英治



第29回オリンピック競技大会（2008/北京）
ウエイトリフティング 小宮山哲雄 監督
（昭和53年度卒業生）

小宮山哲雄監督より寄贈



マイクロバス



2台目のマイクロバス

後援会の皆様には、日頃活動にご理解とご協力を頂きありがとうございます。さて、明誠高校には、マイクロバスがあり、校外学習や研修等に利用されています。このバスの老朽化が激しくなったため運転には最善の注意を払い、場合によっては、観光バスなどを借りる状況がありました。そのため昨年度2台のうち1台を購入し、今年度は残りの1台を購入致しました。この度購入した新車も、昨年同様カーナビ、ETC、オートマとフル装備であります。今後は、学校の学習や諸活動に利用して頂けると幸いです。

なお、これからも後援会会費をできるだけ生徒のために役立てるよう運営していきたいと思っています。

日本大学明誠高等学校後援会 会長 高橋政雄

平成20年度 後援会活動報告

- 平成20年4月 ・ 球技大会
- 5月 ・ 後援会定期総会
- ・ 第1回役員会
- 6月 ・ 第2回役員会
- ・ 第1回委員総会、学年別委員会
- ・ 文化祭「誠祭バザー、お茶処」支援
- 7月 ・ 「広報明誠」発行第86号
- 9月 ・ 第3回役員会
- 10月 ・ 体育祭
- ・ 山梨私学のつどい出席
- ・ 秋季研修会
- 11月 ・ 強歩大会(トン汁) 支援
- 12月 ・ 第4回役員会
- ・ 第2回委員総会、学年別委員会
- 平成21年1月 ・ 賀詞交歓会
- 3月 ・ 「平成20年度卒業証書授与式」出席
- ・ 卒業謝恩会
- ・ 「広報明誠」発行第87号
- 4月 ・ 「平成21年度入学式」出席 (予定)
- ・ 第5回役員会 (予定)
- 5月 ・ 第6回役員会 (予定)
- ・ 後援会定期総会 (予定)

～編集後記～

平成20年度「広報明誠」も無事最終号の発行となりました。お忙しいなか原稿をお寄せ下さった先生方・委員の皆様ありがとうございました。

部員一同心より御礼申し上げます。

ご意見・ご要望等がありましたらお知らせ下さい。今後の参考にさせていただきます。

尚、広報は学校のホームページでもご覧いただけます。